

(案)

平成26年4月 日

渋谷区議会議長 前田和茂
五輪・パラリンピック対策特別委員長 伊藤毅志

国立競技場の建替えに係る説明会の開催について

このたび、本区議会五輪・パラリンピック対策特別委員会では、国立競技場の建替え計画について調査するため、独立行政法人日本スポーツ振興センターを招いての説明会を下記のとおり開催することになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご参加くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成26年4月16日(水)午後1時40分から
- 2 場 所 渋谷区総合庁舎5階 第1会議室
- 3 説明者 独立行政法人 日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部長 山崎 雅男 氏
- 4 内 容 「国立競技場の建替え計画について」(概要説明及び質疑)

平成26年度 活動方針及び活動内容について（案）

I、活動方針

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関連する諸問題の解決と気運の醸成を図るため、調査並びに対策を講ずることを目的とする。

II、活動内容

1、第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会に関する調査並びに対策の件

- ① 新国立競技場の整備事業について内容を調査し、対策を講ずる。
- ② オリンピック・パラリンピック開催に向けた『まちづくり』への課題を調査し、対策を講ずる。
- ③ オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運を醸成する。
 - (1) 区民組織の結成を目指し、記念講演会を開催
 - (2) オリンピック推進校など教育関連事業の調査・対策
 - (3) 外国人に対するおもてなし関連事業の調査・対策
- ④ 懇談会を開催する。
 - (1) 地元住民との懇談会
 - (2) 独立行政法人日本スポーツ振興センターとの懇談会
 - (3) 東京都ほか必要団体との懇談会
- ⑤ 情報交換を行う。
 - (1) 他自治体との情報の共有
 - (2) 他関連施設の視察

2、区民へのPR活動

- ① 活動内容を「区議会だより」「四特別委員会特集号」及び「区議会ホームページ」により周知する。
- ② 「くみんの広場」に参加し、気運の醸成を図る。

国立競技場の建替え計画について

資料 1 国立霞ヶ丘競技場周辺地図

資料 2 国立競技場の改築に係る予定

資料 3 - 1 新国立競技場の主な基本設計条件

資料 3 - 2 新国立競技場基本設計条件

資料 4 新国立競技場に関する日本スポーツ振興センターの考え方（案）

国立霞ヶ丘競技場周辺地図

資料1

●東京都心、霞ヶ丘地区にはスポーツ施設が揃っている。●周辺には鉄道施設が整備され、交通の便が非常によい。

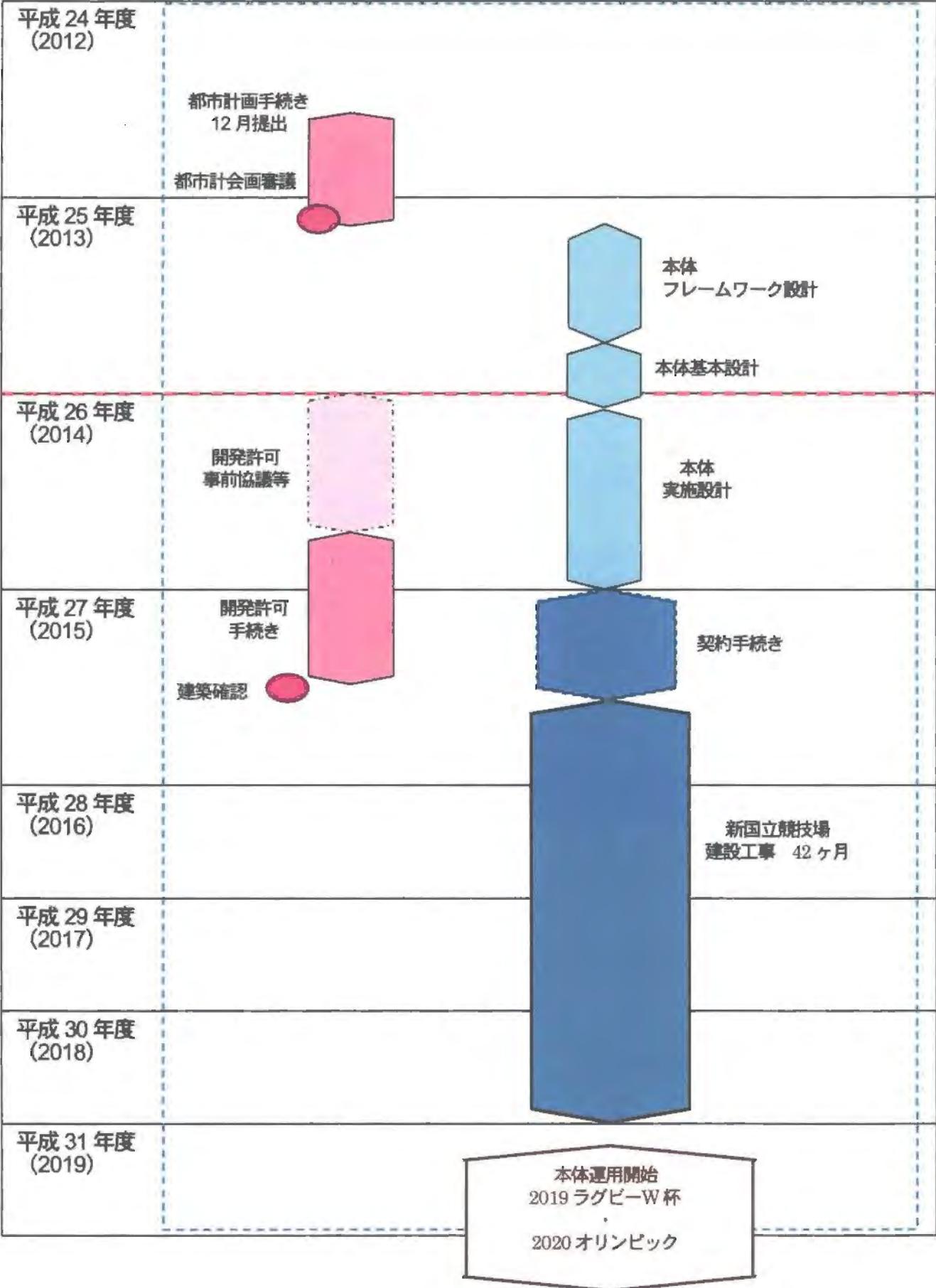


300m

日本スポーツ振興センター所有地	財務省所有地	東京都所有地	明治神宮所有地	一般財団法人高度技術社会推進協会所有地	民間所有地
-----------------	--------	--------	---------	---------------------	-------

■現在の都市計画(規制) ①観覧場の用途が規制対象(第二種中高層住居専用地域・文教地区) ②高さ上限15m(風致地区) ③都市計画公園内の建築許可 等様々な規制がかかっている。

■ 国立競技場の改築に係る予定



新国立競技場の主な基本設計条件

○収容人数は、固定席（可動席を含む）で8万人

○施設規模は、約22万㎡を目安

○日本スポーツ振興センターにおける現時点での見積額

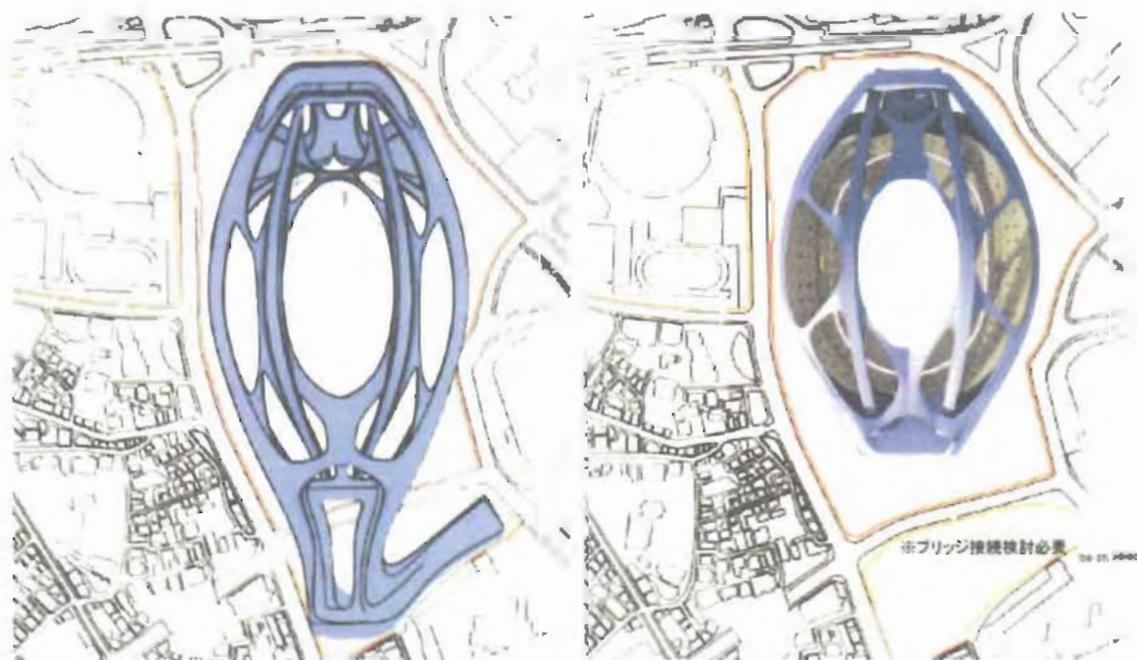
本体工事 1,388億円

周辺整備工事 237億円

解体工事 67億円

合計 1,692億円

【デザインのコンパクト化】



【2013年3月時点案】

【現在案】

新国立競技場基本設計条件

平成 26 年 2 月

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

基本設計条件 目次

1. これまでの経緯
2. 新国立競技場に求める姿
3. 敷地概要
4. 収容人数
5. 施設規模
6. 構造
7. フィールド
8. 観客席
9. 開閉式屋根
10. 芝生の養生・維持管理
11. ホスピタリティ施設
12. スポーツ振興機能(秩父宮スポーツ博物館・商業施設)
13. 設備機器の検討
14. アクセス
15. 周辺整備
16. 周辺環境との調和、影響の検討
17. 駐車場
18. 安全性の確保
19. 災害時の対応
20. 建設費
21. 工期
22. 記念作品、芸術作品などの活用・保存

※本設計条件(案)で示している図等については、今後の基本設計の検討により変更もあり得る。

1. これまでの経緯

【1964年の東京オリンピックのメインスタジアム】

1964年の東京オリンピックは、日本が戦後復興をとげ、国際社会の舞台に復帰するシンボルであった。国家プロジェクトとして開催された本大会において、国立霞ヶ丘競技場（以下、国立競技場という。）はメインスタジアムとして使用され、その後、オリンピックのレガシーとして今日まで大切にされてきました。

【現在の国立競技場の現状】

しかしながら、それから半世紀が経過し、現在の国立競技場は、経年による劣化が著しく、また、陸上トラックが8レーンであることなど国際大会を開催するのに支障が生じている状態です。

【ラグビーワールドカップ2019】

また、2019年に開催が決定しているラグビーワールドカップも、ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟により「ラグビーワールドカップ日本大会をはじめ、首都・東京で今後開催予定の大規模な国際競技大会のメインスタジアムとして活用するべく、国立霞ヶ丘競技場を8万人規模のナショナルスタジアムとする」ことが決議されました。

【オリンピック・パラリンピックの2020東京招致】

一方、半世紀が経過し、2011年12月の衆議院本会議及び参議院本会議において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京へ招致するため、「国を挙げて、必要となる支援や競技環境等その準備態勢を整備すべきである」ことが決議され、本年9月7日、IOC総会において東京招致が決定されました。ブエノスアイレスにおけるIOC総会プレゼンテーションにおいても、新国立競技場の建替えを政府として確約したところです。

【スポーツ基本計画】

これらの背景には、2011年6月に制定されたスポーツ基本法があります。また、これに基づき、2012年に「スポーツ基本計画」が策定されました。この計画において、「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」の1つとして、「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」が掲げられており、この中で、日本スポーツ振興センターは「国立霞ヶ丘競技場等の施設の整備・充実等を行い、オリンピック・ワールドカップ等の大規模な国際大会の招致・開催に対し支援する」とされており、新国立競技場の整備はいわゆる

ナショナルプロジェクトとして位置付けられているところです。

【国立競技場の建替え】

2013年9月7日に開催が決定された2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして、また2019年に開催が決定しているラグビーワールドカップのメインスタジアムとして、国立競技場を8万人規模のナショナルスタジアムに建替え、新たな歴史に一步を踏み出すこととしました。

【有識者会議の設置及びデザイン競技実施の決定】

新国立競技場の将来構想については、「国立競技場将来構想有識者会議(委員長:元日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使 佐藤禎一氏)」を平成24年3月に設置し、将来構想の検討を行うとともに基本構想デザイン案を募ることを目的として「新国立競技場基本構想国際デザイン競技」(以下、デザイン競技という。)を行うことが提案され、日本スポーツ振興センターとして行うことを決定しました。

【デザイン競技募集要項の決定】

募集要項については、同有識者会議の下に設置されたスポーツWG(座長:日本サッカー協会名誉会長 小倉純二氏)・文化WG(座長:作曲家 都倉俊一氏)からの要望を、建築WG(座長:建築家 安藤忠雄氏)がとりまとめ、同デザイン競技募集要項の検討を行い、同年7月同有識者会議で了承されました。

【デザイン競技の実施】

日本スポーツ振興センターは、7月20日に同デザイン競技募集要項の交付を開始し、9月25日の提出期限までに46作品の応募がありました。これらを審査をするために「審査委員会(委員長:建築家 安藤忠雄氏)」を設置し、10月16日に第1次審査で11作品に絞り込み、11月7日の第2次審査でザハ・ハデイド氏の案を最優秀作品に選定し、11月15日に有識者会議において了承されました。

【フレームワーク設計の実施】

その後、基本設計に入る前段階として、ザハ・ハデイド氏のデザイン案を基にコストや規模などの基本設計条件を整理するための「フレームワーク設計」を行うこととし、3月1日に公募型プロポーザル方式で選定手続きを開始し、別途設置した選定委員会において、5月15日に、日建設計・梓設計・日本設計・アラップジャパンの4社JVを特定し、5月31日に契約しました。

併せて、ザハ・ハデイド・アーキテクツとデザイン監修契約を結んでいます。

【フレームワーク設計における検討】

「フレームワーク設計」では、ザハ・ハディド・アーキテクツのデザイン監修の下、基本設計を行う前段階として、既に決定しているラグビーワールドカップに加え、オリンピック・パラリンピック競技大会開催を想定しつつ、ザハ・ハディド氏のデザイン案を忠実にかつスポーツ・文化の各WGから出された要望をすべて取り入れた場合の試算を行いました。

その試算した工事費がデザイン競技時の目安を超えるものであったため、各方面からの御指摘などを拝聴しながら、ザハ・ハディド氏のデザイン案を生かしつつ、各競技の関係規定を前提に、規模やコストを縮小し、基本設計条件をとりまとめました。

2. 新国立競技場に求める姿

- ・新しく整備する競技場では、スポーツ基本計画で謳われている大規模競技大会が開催できる競技場であるとともに、スポーツ利用のない時でも文化的利用を行うことができる大規模集客施設であること、また、神宮外苑という地域性への配慮と環境性能にも優れた、世界に誇れるスポーツ・文化の拠点となることが求められる。
- ・既に開催が決定したラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック競技大会が様々な面において最高の大会となるような競技場であること。
- ・第2回有識者会議(平成24年7月)においてとりまとめられた新競技場に求められる要件(目指すスタジアムの姿)は以下のとおりである。

○大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す
- ・アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能なスタジアムを目指す

○観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す
- ・開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す

○年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す
- ・各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す

○人と環境にやさしいスタジアム

- ・最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す
- ・震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す
- ・スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

3. 敷地概要



項目	内容
所在地	東京都新宿区霞ヶ丘町 10 番 1 号ほか(東京都新宿区及び東京都渋谷区)
敷地面積	建設敷地(A-2 地区) : 約 113,000 m ² (国立霞ヶ丘競技場 : 約 74,000 m ² 明治公園(四季の庭、霞岳広場) : 約 29,800 m ² 日本青年館 : 約 5,000 m ² 新宿区道 : 約 4,200 m ²) 関連敷地(A-1 地区) : 約 46,000 m ² 関連敷地(A-3 地区) : 約 25,000 m ² 計 : 約 184,000 m ²
道路幅員	東側:区道 43-670 約 15m、18m 西側:都道 418 号 約 22m 南側:区道 43-690 約 20m 北側:都道 414 号 約 22m
地域地区	用途地域 : 第二種中高層住居専用地域 風致地区 : 明治神宮内外苑風致地区(第二種風致地区) 文教地区 : 第一種文教地区 防火指定 : 準防火地域 高度地区 : 第二種高度地区
地区計画	東京都市計画神宮外苑地区地区計画(再開発等促進区)
容積率	250%(見直し相当容積率 200%+評価容積率 50%)
建蔽率	70%(10%角地緩和込)
日影規制	3.0 時間-2.0 時間
都市計画施設	都市計画公園

4. 収容人数

新国立競技場の収容人数は、以下を考慮し、固定席(可動席を含む)8万人とする。

- ① 2019年ラグビーワールドカップや2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用されること。
- ② 新国立競技場は、今後50年100年使っていく計画であり、毎年開催されるサッカー日本代表戦やコンサートの開催、FIFAワールドカップや世界陸上など大規模大会の招致が想定されること。
- ③ 近年の開催地では、2008年北京大会9万1千人、2012年ロンドン大会8万人、2016年リオデジャネイロ大会9万人規模となっており、2020年開催地決定の際のオリンピック招致ファイルによって約束したこと。

5. 施設規模

デザイン競技時から、コストおよび維持管理等を考慮しつつ、以下の見直しポイント等について検証を進めてきた結果、合計約22万㎡を目安に基本設計を行う。

(見直しのポイント)

- ・各競技間の必要諸室の共用化
- ・大規模大会時の必要諸室の仮設対応化
- ・秩父宮スポーツ博物館の縮小
- ・レストラン等商業施設の縮小
- ・ホスピタリティ専用エリアの縮小
- ・駐車場台数の削減(900台→662台)

想定面積内訳(詳細を参考に付す)

各機能	現在案
競技等機能	26,180 ㎡
競技等関連機能	8,410 ㎡
観覧機能	85,170 ㎡
メディア機能	3,520 ㎡
ホスピタリティ機能	20,420 ㎡
防災警備機能	810 ㎡
スポーツ振興機能	15,050 ㎡
維持管理機能	25,070 ㎡
新規機能(立体通路)	5,520 ㎡
駐車場	34,800 ㎡
合計	224,950 ㎡

施設規模については、基本設計で今後も諸室規模の精査や専用室の共用化、各競技団体との調整により継続検討する。

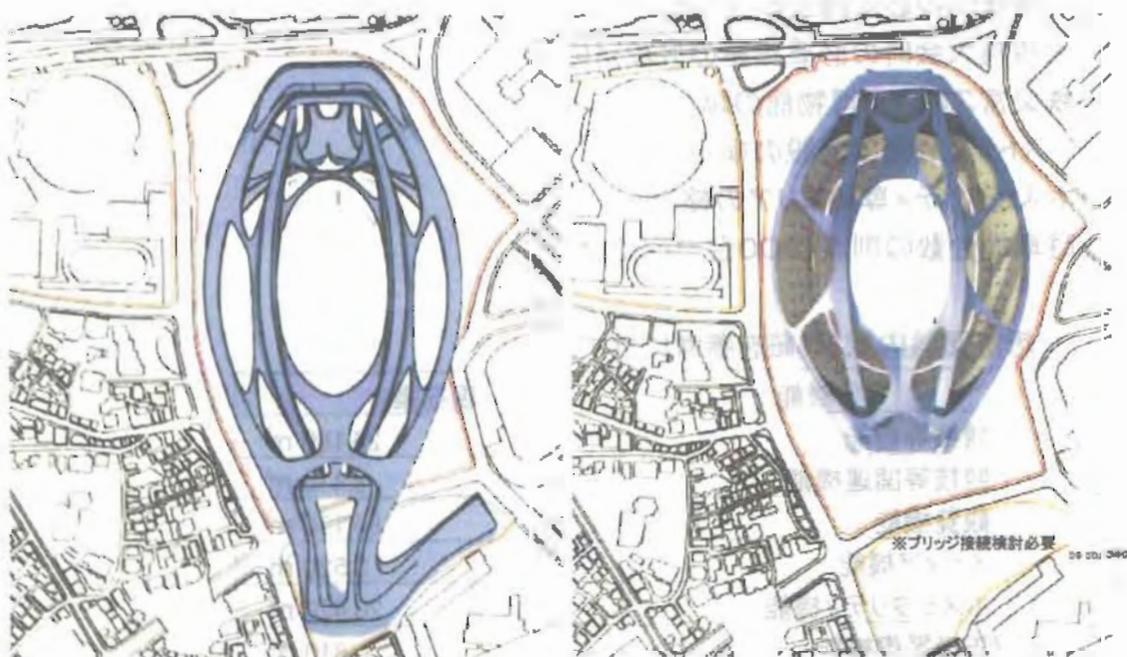
6. 構造

施設規模の縮小や都市計画、建築基準法などの規定を踏まえ、デザイン競技時のデザイン案を生かしつつ、コンパクト化を図ることが可能であることが検証された。コンパクト化を図った現在案を以下に示す。

その具体的な構造計画は、今後、基本設計において検討する。

なお、その際、大地震時においても、機能が損なわれない施設となる耐震性能を確保する。そのために、固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風荷重、地震荷重について、他事例や各種文献を参考に本計画で想定する荷重の整理を行い、法基準等に従った安全・安心な大規模空間を形成する。

○2013年3月時点案と現在案の規模比較



【2013年3月時点案】

【現在案】

7. フィールド

フィールドは以下に対応可能とする。

- ・ラグビー：ラグビーワールドカップ決勝戦、国際ラグビー大会、国際ラグビー7のトーナメント
- ・サッカー：FIFAワールドカップ、クラブワールドカップ、国際大会及びJリーグ大会
- ・陸上：オリンピック、パラリンピック、アジア競技大会、世界陸上、
その他類似規模のIAAF(国際陸連)クラス1イベント
- ・上記の開会式や閉会式などのセレモニー関連、エンターテイメントのイベント、コンサート、展示会

8. 観客席

陸上競技だけでなく、ラグビーやサッカー、その他スポーツの競技者と観客に一体感が生まれ、臨場感あふれるピッチに近い観客席となるよう計画する。また、コンサート使用時に、優れた音響環境となるよう配置や材料を考慮する。さらに、観客席はバリアフリーに対応し、誰もが安心して観戦できる計画とする。

■ 可動席

ラグビーやサッカー、陸上競技、コンサートなど、開催するイベントによって、求められるフィールドの大きさやフィールドと観客席との距離が変わることから、観客席の一部を可動式にして、イベントに応じてフィールドと観客席の間隔を最適にすることで、臨場感を最大限まで高めることを目指す。

9. 開閉式屋根

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック競技大会などのスポーツイベントだけでなく、コンサートなどの文化的なイベント利用を想定した場合に、天候に係わらない安定的な開催や増収を図る観点からは、屋根の一部が可動する開閉式屋根の設置は必要である。

設計する際には、競技場内の音響性能はもとより、コンサート時の周辺への音漏れを極力抑えるよう遮音性にも配慮することが必要である。

また、開閉式屋根設置に伴う整備費用及び維持費用については、基本設計の中で精査を行う。

10. 芝生の養生・維持管理

芝生育成のため、ピッチ面で出来るだけ多くの日照や通風が得られるように建物形状、屋根の材質、補助設備等について検討し、その上で最適な芝生の養生・維持管理方法を検討する。イベント実施の際は、芝生養生シートの敷設を行うことや、今後検討するその他の方法とも合わせ、極力芝生を傷めないよう配慮する。

11. ホスピタリティ施設

世界水準のおもてなしが実現できるVIP席およびボックスシート、またそれらに付随したラウンジやレストラン等のホスピタリティ施設を計画する。イベント開催日以外も、利用規模に応じてダイニングやミーティング等で利用できるように計画とする。

今後、基本設計において収入とコストを最適化する観点から検討を進める。

12. スポーツ振興機能 (秩父宮スポーツ博物館・商業施設)

新国立競技場がスポーツ、文化の拠点として機能するため、スポーツの素晴らしさを伝える秩父宮スポーツ博物館と図書館、また、地域住民に開放するトレーニングセンターを併設する。それらはイベント日以外の来訪者も利用でき、学生の教育の場や観光スポットとなるような計画とする。

また、競技場を訪れる人や地域住民の利便性を考慮し、最低限のアンテナショップやレストラン等を設ける。

今後、基本設計において収入とコストを最適化する観点から検討を進める。

13. 設備機器の検討

■ 空調設備

本施設は、全天候で使用可能な開閉式屋根をもつスタジアムとして、多様な使用形態に対応した空調計画が求められる。夏季に開催する大会等を想定し、熱中症対策のため、気温上昇等を考慮する必要があることから、大空間となるスタ

ジアムの空調は、観客席エリアを対象として省エネルギー性に配慮した座席下吹出方式による居住域空調を検討する。

■ スタジアム照明設備等の検討

ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の照明基準に対応した照明計画とし、競技者や観客のために最適な照明環境(明るさ、まぶしさ等)に配慮した照明設備を検討する。

■ 環境への配慮

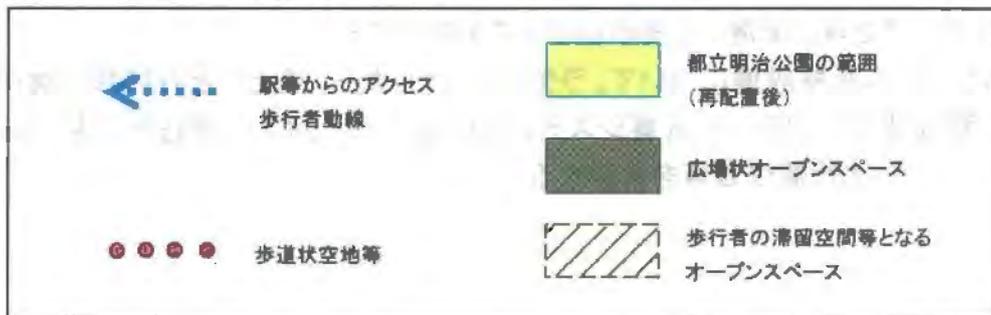
省エネルギー性に優れ長寿命な器具の導入を検討し、環境性、保守性に配慮するとともに、太陽光発電設備など自然エネルギーの導入や雨水利用など、環境に配慮した設備を検討する。

■ スタジアム映像・音響設備

大型映像装置については、ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の定める基準(大きさ、台数等)に対応した計画とするとともに、競技者や観客に対応した表示の見やすさ等に配慮した表示部サイズを検討する。

スタジアム音響設備について、ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の定める音量基準に対応した音響システムを計画するとともに、競技者や観客に対応したスピーカ設置位置等を検討する。

14. アクセス



○周辺駅からのアクセス

- ・6つある周辺駅の方面からスタジアムにアクセスすることになる。
- ・多くの利用者が見込まれるのは、北側にあるJR千駄ヶ谷駅と信濃町駅、都営大江戸線国立競技場駅の3駅である。その他、南側にある東京メトロ青山一丁目駅、外苑前駅及び西側にある北参道駅の3駅からのアクセスが見込まれる。
- ・これを前提に置き、今後の基本設計で競技場へのアプローチなどを検討する。

○車両アクセス

・地盤レベルかそれ以下に想定する駐車場へのアクセス性及びマラソン競技者のピッチへのアクセス性を考慮し、車両のメインアクセス箇所は、敷地外周道路のうち標高のもっとも低い敷地西側の都道 418 号線(外苑西通り)からと設定する。ただし、都道 418 号線(外苑西通り)にすべての出入口を集中させず、他の外周道路からも適切に出入りできる計画とする。

15. 周辺整備

周辺整備の設計については、周辺地域との関係があることから、東京都等関係自治体とも調整しつつ進める。

■ 歩行者デッキの接続

交通機関、道路(歩道)や公園、他の敷地など既設の基盤交通機能との相互の連携・調和に配慮し、地区全体にわたり回遊性のあるネットワークを持ち、バリアフリーに配慮するとともに、敷地内を貫通する歩行者空間、人溜まり空間(滞留スペース)となる広場的な歩行者空間の検討を進める。

■ 公園の確保

都立明治公園の再配置にあたり、現在の特徴と基本的な性格を継承しつつ、現有規模の確保を図る。なお、広域的な緑のネットワークとの連続性、新国立競技場との一体的空間の整備、分断されていた既存公園の一体性・連続性の確保、立体公園制度の活用、歩行者や人溜まりのための空間と公園の緑との連携・共存に配慮した計画とする。

■ 空地の確保

オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模大会時には、施設の性格上、人の流れが集中することから、安全で快適な空間として歩道状空地、広場状空地を適切な位置に確保するとともに、歩行者デッキ、公園と併せて、機能面での連携に配慮した計画とする。

16. 周辺環境との調和、影響の検討

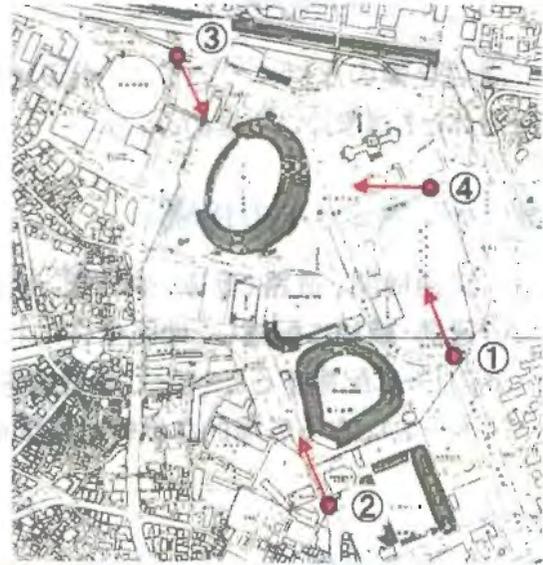
東京都環境確保条例等に示されている、土壌・地下水・騒音・大気等に関する規制値や基準を遵守し、周辺環境へ配慮する。特にイベント時の騒音に配慮するため、建物各所に遮音材や吸音材の採用を考慮する。

周辺には適切に緑を計画し、神宮外苑地区の緑と一体となった景観を目指す。

また、現在案の場合の周辺からの見え方をシミュレーションしたものを以下に示す。

撮影位置・方向を右図に示す。

撮影条件：地上地盤より1.5mの
高さで撮影。



【現状】①

上野野山公園、公園
事務所、航空記念
公園、公園、公園

【現在案】①





【現状】②



【現在案】②



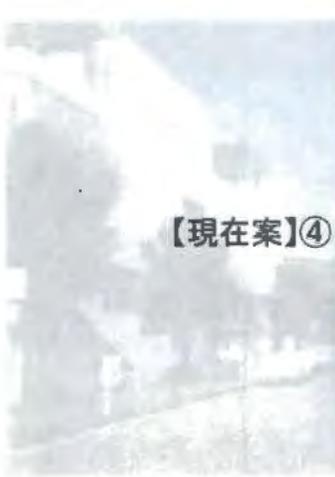
【現状】③



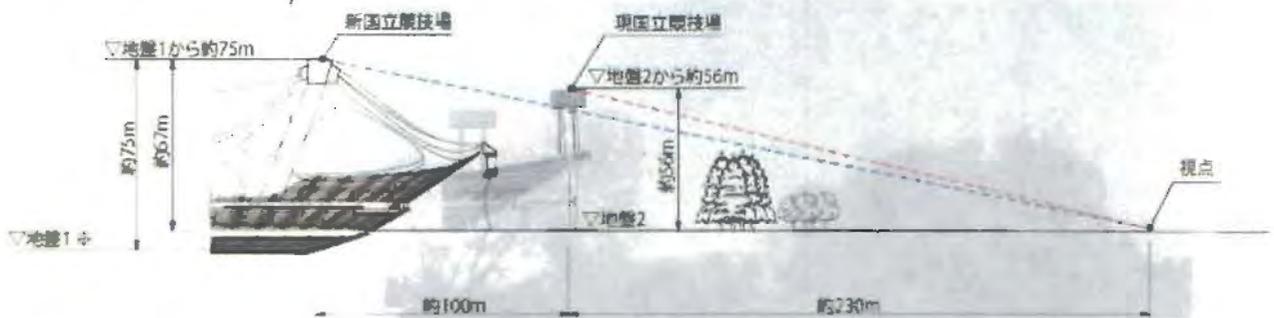
【現在案】③



【現状】④



【現在案】④



※地盤1：平均地盤レベルは、今後の官庁指導及び設計の進捗により設定を行います。

17. 駐車場

新国立競技場に附置する駐車場は、直営の大会運営に最低限必要な台数(662台)を確保する。具体的には以下のとおり。

合計 662台

(うち、乗用車 507台(競技者用 26台、VIP/VVIP用 430台、メディア用 15台、

関係者用 36 台)、身障者用 60 台、バス 54 台、荷捌用・中継車用 41 台)

この台数は、東京都駐車場条例等の関連法規に定められている台数(635 台)と同程度である。

なお、オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模大会において追加で必要な台数は、周辺駐車場や仮設で対応することが想定されている。

18. 安全性の確保

■ 避難計画

イベント時に最大 80,000 人が集まる施設であり、非常時における避難について十分に検討する必要がある。特に、観客席から避難階へ安全かつスムーズに一時避難できる動線及び流動計画の検証や、一時避難先となる場所(人溜まり空間)の適切な確保等を、各種法規制や国内外事例を参照しながら、今後具体的に検討する。

19. 災害時の対応

■ 方針

競技やイベントなどで多数の人が集まり、非常時・災害時には地域住民の避難場所としての役割も期待されることから、その安全性の確保は極めて重要である。

特に、新国立競技場は、大規模空間であり、かつ、開閉式屋根が設定されていることから、天候にかかわらず多数の人が避難できるメリットがある。

また、新宿、渋谷などのターミナル駅からも災害時の徒歩によるアクセスが比較的容易な立地にある。このため、今後、首都直下型地震帰宅困難者等対策協議会最終報告等の関連規定に示されている「一時滞在施設」「避難所」等の位置づけを自治体と相談しながら決定し、災害時対応の方針等を作成する。

20. 建設費

建設費については、昨今の建設物価高騰への対応、工期厳守対策、オリンピック・パラリンピック競技大会開催への対応(オリンピック・パラリンピック仕様の空調設備の設置や周辺の整備)を考慮しつつも、可能な限り建設コストの縮減に努め

る。

また、現時点での見積額は、1,388億円(本体工事)。これに加え周辺整備工事237億円、現競技場解体工事67億円。

なお、周辺整備工事で見込んでいる内容は以下のとおり。

周辺整備工事内訳	
サブトラック連絡通路	4億円
人工地盤等(バリアフリー)	216億円
明治公園橋解体撤去	1億円
インフラ切り廻し	16億円
合計	237億円

21. 工期

新国立競技場は、2019年(平成31年)9月～10月に開催予定のラグビーワールドカップの会場として使用されることが決定していることから、現時点では下記のとおり既存施設解体及び建設工事工程を予定している。

- 建物解体(15ヶ月):2014年(平成26年)7月～2015年(平成27年)9月
- 建設工事(42ヶ月):2015年(平成27年)10月～2019年(平成31年)3月

22. 記念作品、芸術作品などの活用・保存

■ 記念作品、芸術作品、記念碑

現国立競技場敷地内にある記念作品、芸術作品、記念碑については、既存施設解体時に取り外し、別所にて保管し、今後決定される活用・保存等の方針に従い、再設置や保存等を実施する。

特に、「出陣学徒の碑」については、国立競技場の歴史的経緯に鑑み、新国立競技場の敷地内に保存する。

■ 植栽等

既存の敷地内樹木については、解体工事費、建設費、工期や新国立競技場の施設計画との兼ね合いを考慮して、適切な新植、移植、伐採、再利用等に関する計画を検討する。

機能別諸室規模一覧表

平成26年2月
新国立競技場設置本部

新国立競技場	縮小諸室規模	
機能	部屋名	JSC 調整面積 (㎡)
競技等機能	競技空間	22,000㎡
	小計	22,000㎡
	器具庫	1,500㎡
	練習用走路	2,000㎡
	メンテナンス事務室	50㎡
	メンテナンス倉庫	600㎡
	洗い場	30㎡
	小計	4,180㎡
		26,180㎡
競技等関連機能	チーム更衣室	800㎡
	選手更衣室	300㎡
	シャワー室・浴室・給湯・洗面・トイレ	450㎡
	マッサージルーム	160㎡
	リフレッシュエリア	100㎡
	ウォーミングアップスペース (屋内)	300㎡
	ウエイトトレーニング場	240㎡
	サウナ/リラクゼーションエリア	60㎡
	楽屋	200㎡
	監督室	80㎡
	帯同スタッフルーム	80㎡
	審判更衣室	160㎡
	大会用多目的室	500㎡
	医務室 (事務室)	100㎡
	医務倉庫	20㎡
	ドーピングコントロール室	250㎡
	待機室 (ドーピング検査待合室)	400㎡
	大会運営本部	200㎡
	ジェネラル・コーディネーター室	40㎡
	競技運営本部	160㎡
	マッチコミッショナー室	40㎡
	マッチコーディネーションミーティング室	50㎡
	運営サポート共通室	1,000㎡
	設備関連諸室	560㎡
	小計	6,250㎡
	共用 (トイレ、倉庫、廊下等)	2,160㎡
	小計	2,160㎡
		8,410㎡
観覧機能	観覧席	44,000㎡
	コンコース (コンコース、階段、昇降機、倉庫等)	29,700㎡
	チケットセンター	300㎡
	救護室	250㎡
	授乳室	120㎡
	キッズスペース	160㎡
	託児室	140㎡
	トイレ	8,400㎡
	レストラン、売店 (一般用)	2,100㎡
	物流冷蔵倉庫	コンコース面積に含む
	調整面積	
	小計	85,170㎡
		85,170㎡
メディア機能	記者等の作業スペース (スタジアム常設プレスセンター)	720㎡
	実況放送スタジオ	360㎡
	実況放送コントロールエリア	110㎡
	会見場 (記者会見室)	550㎡
	ミックスゾーン	600㎡
	TVスタジオ	160㎡
	TV控室 (HB控室)	200㎡
	認定オフィス (メディア受付)	20㎡
	小計	2,720㎡
	共用 (トイレ、倉庫、廊下等)	800㎡
小計	800㎡	
		3,520㎡

※諸室の面積については、今後、基本設計において増減があり得る。

新国立競技場	縮小諸室規模		
機能	部屋名	JSC 調整面積 (㎡)	
ホスピタリティ機能	VIPウェルカムデスク	100㎡	
	VIPラウンジ	2,700㎡	
	VIP/VVIPインタビューブース	30㎡	
	VIP/VVIPメディカルルーム	40㎡	
	VIP/VVIPキッチン	900㎡	
	SP/ドライバーエリア	100㎡	
	VVIP控室	80㎡	
	VVIPウェルカムデスク	100㎡	
	VVIPラウンジ	300㎡	
	VVIP用トイレ	20㎡	
	個室ラウンジ	30㎡	
	観戦ボックス	4,400㎡	
	会員用ラウンジ	1,900㎡	
	キッチン	3,000㎡	
	レストラン	2,700㎡	
	小計	16,400㎡	
	共用 (トイレ、倉庫、廊下等)	4,020㎡	
	小計	4,020㎡	
			20,420㎡
	防災警備機能	警備本部	150㎡
警察・消防指令室兼控室 (警察・消防詰所)		660㎡	
小計		810㎡	
		810㎡	
スポーツ振興機能	資料展示・映像エリア		
	スポーツ体験エリア		
	企画展示室		
	図書館		
	教育普及・生涯学習関連諸室		
	事務室		
	ボランティア控室		
	更衣室・ロッカー		
	調査研究諸室		
	収蔵庫		
	閉架書庫		
	ミュージアムショップ		
	多目的ホール		
	レストラン、カフェ		
	飲食事業スペース「非イベント時来場者用」	1,000㎡	
	物販事業スペース「非イベント時来場者用」	1,000㎡	
	サービス事業スペース「非イベント時来場者用」	100㎡	
	スポーフィットネス事業	4,350㎡	
	企業 (パートナー)・大会運営組織等への賃貸スペース	1,730㎡	
	小計	11,780㎡	
共用 (トイレ、倉庫、廊下等)	3,270㎡		
小計	3,270㎡		
		15,050㎡	
維持管理機能	管理運営本部	900㎡	
	会議室	400㎡	
	防災センター (警備防災業務)	400㎡	
	設備センター (設備保守運転監視業務)	90㎡	
	清掃センター (環境衛生業務)	200㎡	
	駐車場センター (駐車場管理業務)	200㎡	
	保管庫 (警備防災エリア)	40㎡	
	防災倉庫	800㎡	
	受変電設備	3,610㎡	
	受水排水設備	4,000㎡	
	熱源設備	5,650㎡	
	空調設備	5,610㎡	
	廃棄物処理エリア	900㎡	
	小計	22,800㎡	
	共用 (トイレ、倉庫、廊下等)	2,270㎡	
小計	2,270㎡		
		25,070㎡	
立体通路	立体通路	5,520㎡	
		5,520㎡	
駐車場	一般用駐車場	34,800㎡	
	小計	34,800㎡	
延床面積合計		224,950㎡	

※諸室の面積については、今後、基本設計において増減があり得る。

新国立競技場整備に関する日本スポーツ振興センターの考え方（案）

日本スポーツ振興センターでは、新国立競技場の基本設計を行う前段階として、国際デザイン競技で選ばれたザハ・ハディド氏のデザインを基に、平成25年5月31日、設計者とフレームワーク設計業務の契約を行い、規模やコストなど、基本設計に向けての条件整理を行ってきました。

このたび、新国立競技場の基本設計条件がまとまりましたので別途公表しました。

また、皆様からよくお問い合わせのある質問に対して、Q&A方式で回答を掲載しています。

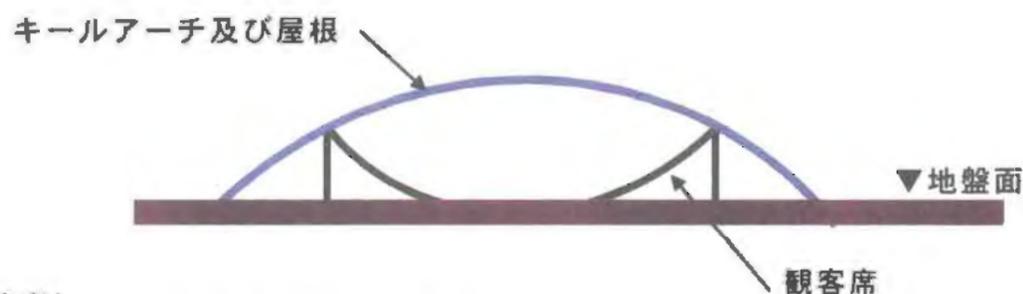
Q2 観客席の一部は、オリンピック・パラリンピック期間中、仮設対応としてはどうか。

新国立競技場のザハ・ハディド氏のデザインは、キールアーチ及び屋根で上部空間が囲まれています。また、このキールアーチの構造的な負担を客席部の構造体が一部負担することとしています。このようなことから、観客席（椅子）の一部は仮設であっても、この空間に8万席分の構造体を整備する必要があります。（下図参照）

また、新国立競技場は50年、100年使用する計画であり、サッカー日本代表戦や、コンサートなど、8万人規模のイベントも行う予定です。

なお、イベントの都度、仮設席を設置・撤去することは経済的側面から合理的ではないと考えています。仮に観客席を仮設としても、キールアーチの大きさ、客席部の構造体の規模は変わらないため、さほどコスト縮減にはつながらないと考えています。

（参考イメージ図）



（参考）

2万人の観客席整備の試算

○常設として整備した場合

設置費

約 5.2 億円

○仮設として整備した場合

設置費

約 4.2 億円

撤去費

約 0.6 億円

約 4.8 億円

設置・撤去の都度必要な経費

新国立競技場整備に関する日本スポーツ振興センターの考え方（案）

日本スポーツ振興センターでは、新国立競技場の基本設計を行う前段階として、国際デザイン競技で選ばれたザハ・ハディド氏のデザインを基に、平成25年5月31日、設計者とフレームワーク設計業務の契約を行い、規模やコストなど、基本設計に向けての条件整理を行ってきました。

このたび、新国立競技場の基本設計条件がまとまりましたので別途公表しました。

また、皆様からよくお問い合わせのある質問に対して、Q & A方式で回答を掲載しています。

Q1 なぜ8万人収容のスタジアムが必要か。

オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムの収容人員規模は、最近の開催地では、2008年北京大会9万1千人、2012年ロンドン大会8万人、2016年リオデジャネイロ大会9万人規模となっています。また、東京オリンピック・パラリンピック招致を実現するためには、8万人規模のスタジアムが必須であると言われていました。現時点では、オリンピック・パラリンピック招致プランによって約束されています。

加えて、ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟の決議においても8万人規模の競技場とすることが必要であるとされています。

また、新国立競技場は、今後、50年、100年使用することを想定しており、その間、世界陸上やFIFAワールドカップ（決勝会場はFIFAの規定により8万人規模）等の世界的な大規模イベントの会場となることも想定されています。

更に、サッカー日本代表戦や、コンサートなど、大規模なイベントも毎年行う予定です。

これらの大会の開催を決定又は想定していることから、新国立競技場の観客席規模は、国立競技場将来構想有識者会議のご意見も踏まえ、8万人収容としたところ です。

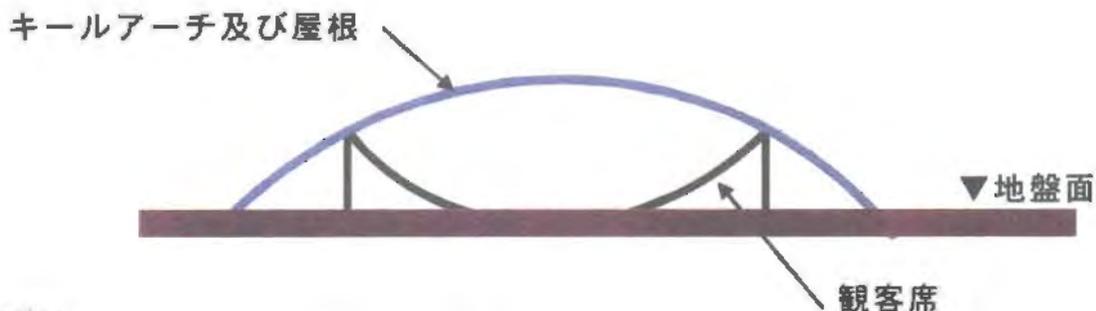
Q 2 観客席の一部は、オリンピック・パラリンピック期間中、仮設
対応としてはどうか。

新国立競技場のザハ・ハディド氏のデザインは、キールアーチ及び屋根で上部空間が囲まれています。また、このキールアーチの構造的な負担を客席部の構造体が一部負担することとしています。このようなことから、観客席（椅子）の一部は仮設であっても、この空間に8万席分の構造体を整備することが必要です。（下図参照）

また、新国立競技場は50年、100年使用する計画であり、サッカー日本代表戦や、コンサートなど、8万人規模のイベントも行う予定です。

なお、イベントの都度、仮設席を設置・撤去することは経済的側面から合理的ではないと考えています。仮に観客席を仮設としても、キールアーチの大きさ、客席部の構造体の規模は変わらないため、さほどコスト縮減にはつながらないと考えています。

（参考イメージ図）



（参考）

2万人の観客席整備の試算

○常設として整備した場合

設置費

約 5.2 億円

○仮設として整備した場合

設置費 約 4.2 億円

撤去費 約 0.6 億円

約 4.8 億円

設置・撤去の都度必要な経費

Q 3 ロンドンオリンピックのメインスタジアムと同じような仮設席で対応できないのか。

ロンドンオリンピックスタジアムの整備計画は、観客席の下層部に25,000席を恒久的な席、上層部に5万5千席の仮設席を整備して、オリンピック・パラリンピックを開催し、終了後は、仮設席5万5千席を撤去して売却する計画だったと聞いています。

これは、ロンドン市内にウェンブリー・スタジアム（9万人収容）、トウイッケナム・スタジアム（8.2万人収容）のように、8万人規模のスタジアムが存在しているため、このような整備計画が策定されたものと考えています。

なお、日本には現在、8万人規模のスタジアムは存在しておらず、ロンドンとの事情が異なると考えています。

Q 4 巨大すぎないか。

フレームワーク設計（基本設計に向けての与条件整理）において、国際デザイン競技募集要項で示した諸室構成と各機能の検証を行い、規模の見直し（約 29 万㎡→約 22 万㎡（下表参照））と平行して、デザインの検討を行ってまいりました。

この結果、ザハ・ハディド氏監修の下、デザインを生かしつつ、全体面積の縮減やキールアーチのスパンの縮小、立体通路の縮小など、コンパクト化が可能なことを検証しました。コンパクト化された現在の案は以下のとおりです。

今後さらに、基本設計、実施設計の各段階において、より精度を上げるとともに、ライフサイクルコスト（将来の維持管理コストも含めたトータルコスト）も踏まえた検証を引き続き行ってまいります。

[全体面積の縮減]

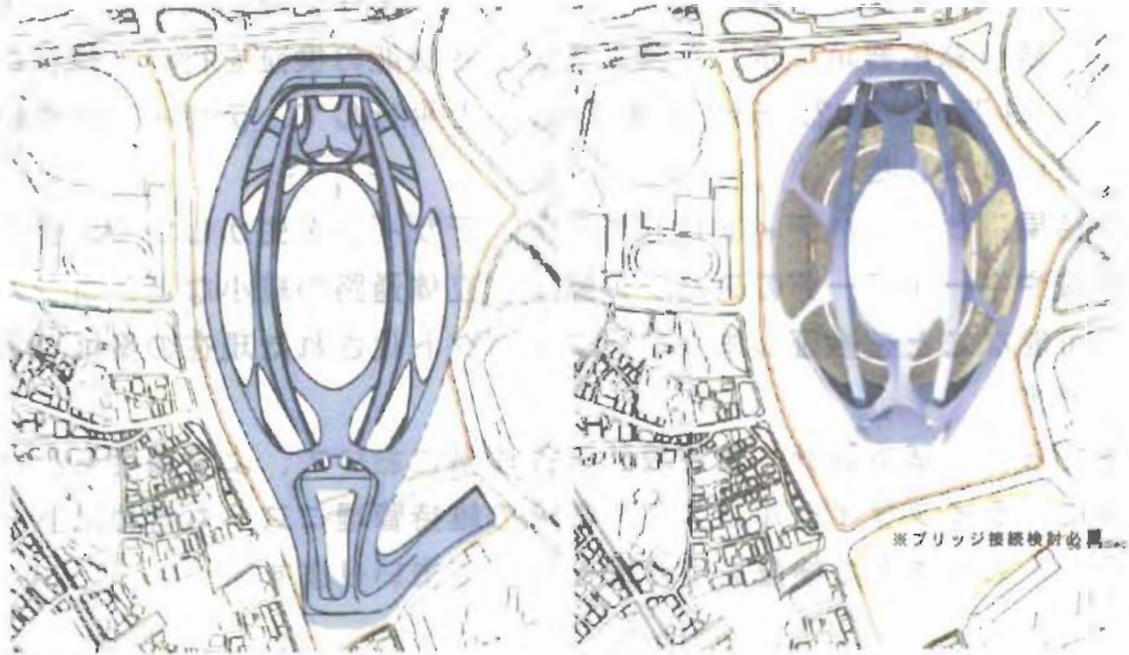
機 能	国際デザイン競技時	現 在 案
競技等機能	約 32,000 ㎡ ⇒	26,180 ㎡
競技等関連機能	約 15,000 ㎡ ⇒	8,410 ㎡
観覧機能	約 111,000 ㎡ ⇒	85,170 ㎡
メディア機能	約 4,000 ㎡ ⇒	3,520 ㎡
ホスピタリティ機能	約 25,000 ㎡ ⇒	20,420 ㎡
防災警備機能	約 1,000 ㎡ ⇒	810 ㎡
スポーツ振興機能	約 21,000 ㎡ ⇒	15,050 ㎡
維持管理機能	約 35,000 ㎡ ⇒	25,070 ㎡
新規機能（立体通路）	— ⇒	5,520 ㎡
駐車場	約 46,000 ㎡ ⇒	34,800 ㎡
計	約 290,000 ㎡ ⇒	224,950 ㎡

(Q 4 関連)

[コンパクト化]

2013年3月時点案

現在案



Q 5 新国立競技場のデザインは神宮の森にふさわしいか。

神宮内苑は、明治天皇・昭憲皇太后を祀るため、神社建築を基調とした明治神宮と清らかで森厳な献木による人工森林となっています。

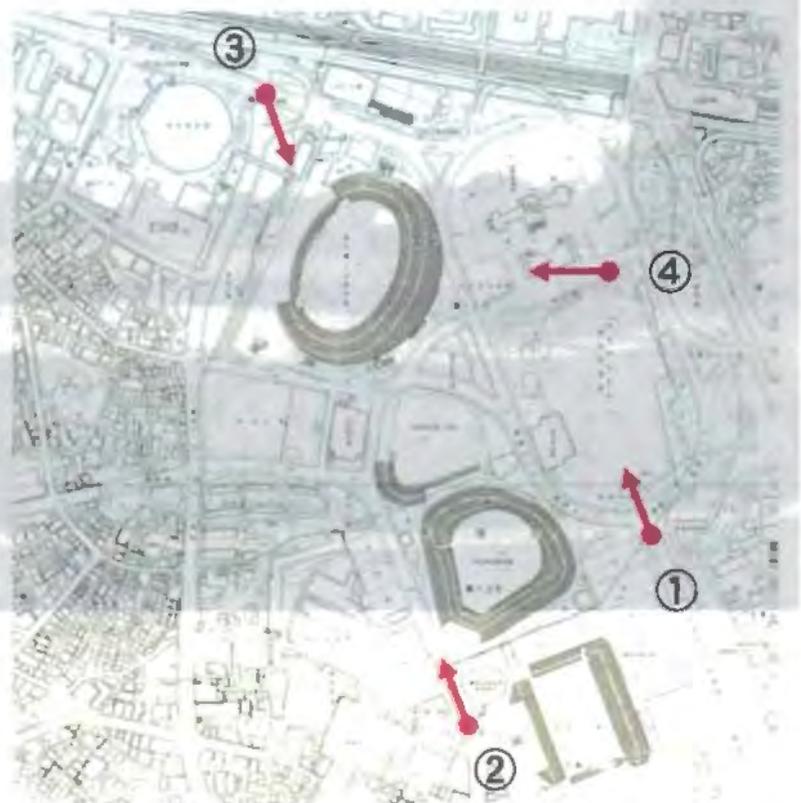
一方、神宮外苑は聖徳記念絵画館を中心に、そのアプローチとしての並木道は、時代に応じた新しいデザインを積極的に取り入れ整備されています。その西部には、体力の向上や心身の鍛錬の場、また文化芸術の普及の拠点として、時代の需要を踏まえ、現国立競技場等のスポーツ施設等が整備されてきました。

このような明治神宮内苑・外苑の歴史的背景を尊重しつつ、今、日本に求められているスポーツ競技施設、文化的な活動の場として再生（建て替え）すべく、日本が持つ最先端の技術力・独自の開発力を集結した、この地域に新しい活力を与えるデザインと考えています。

また、この度、新国立競技場建設地区の東京都市計画地区計画の決定によって、建物高さの最高限度等が緩和されておりますが、明治神宮外苑から東京体育館の一带が、明治神宮内外苑風致地区として位置づけられていることを踏まえて、本地区の歴史的背景等に配慮した計画を進めてまいります。

以下に現在案の場合の周辺からの見え方をシミュレーションしたものを示します。

- ・撮影位置・方向は右図のとおりです。
- ・撮影は、地上地盤より1.5mの高さで撮影しています。



〔現状〕 ①



宝島園地内には、池や水たまりがあり、その周囲には木々が生い茂り、自然豊かな環境が保たれている。また、池の周囲には歩道が整備されており、散歩やジョギングに最適な場所となっている。

〔現在案①〕



〔現状〕 ②



〔現在案〕 ②



〔現状〕 ③



〔現在案〕 ③



〔現状〕 ④

聖徳記念絵画館前から



〔現在案〕 ④



※地盤1: 平均地盤レベルは、今後の官庁指導及び設計の進捗により設定を行います。

Q 6 開閉式屋根は必要か。

開閉式屋根については、今後の活用やコストパフォーマンスを含めて検討することといたします。

国内外のスタジアムでは、限られたスポーツイベント以外の利用を積極的に取り入れ、収入を上げるように取り組んでおり、特にホームチームを有しないスタジアムにおいて、利用率を高め収益を上げるために、コンサートなどスポーツ以外の利用を積極的に実施しています。

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック競技大会などのスポーツイベントだけでなく、コンサートなどの文化的なイベント利用を想定した場合に、天候に係わらない安定的な開催や増収を図る観点からは、屋根の一部が稼働する開閉式屋根の設置は必要と考えています。

また、コンサート等のイベント時の競技場内の音響性能や、周辺地域への音漏れに対する配慮としても有効と考えています。



Q 7 観客席の可動席は必要か。

新国立競技場は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメイン会場であり、陸上やサッカーなどの競技が行われる予定です。

可動席は、陸上競技のみ、若しくは、サッカー、ラグビーのみを開催するスタジアムとする場合は必要ありませんが、陸上競技とサッカー及びラグビーを兼用する多目的スタジアムの場合、ピッチに近い臨場感あるスタジアムとするためには、陸上トラック部分の観客席が必要と考えています。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の運営を考えた場合、収益を上げる観点から、収益性の高いサッカーの代表戦などを積極的に開催することを想定しており、それらを多く開催するためにも可動席は必要不可欠と考えています。

なお、陸上競技場として整備されたロンドンオリンピックスタジアムが、経営上の観点から、改修工事によって恒久的固定席を取り壊し、可動席を改修整備する計画も公表されています。

(参考) 国内外の可動席を設置している多目的スタジアムの例

- ・スタッド・ドフランス (フランス、8万人)
- ・エコパスタジアム (静岡県、5万人)
- ・大分銀行ドーム (大分県、4万人)

Q 8 規模 (29 万㎡) は、他のスタジアムと比較して大きすぎないか。

フレームワーク設計において、運営面や建設費などの観点から総合的に規模を検討した結果、スポーツ競技やイベント開催に必要な機能は維持しつつ、ホスピタリティ機能や商業施設、維持管理機能にかかる面積を見直し、延べ床面積を約 29 万㎡から約 22 万㎡程度に見直しています。

また、新国立競技場は、開閉式の屋根があることにより、その屋根で覆われるフィールド部 (約 2 万 2 千㎡) が床面積にカウントされ、また、敷地の制約によって駐車場 (約 3 万 5 千㎡) の殆どを屋内に設ける必要があることから、見かけ上の床面積は大きくなっているものと考えています。

以下に、北京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムの北京国家体育場及び国内最大規模の日産スタジアムについて、フィールド部と駐車場を考慮した規模を比較した表を示します。

比較表

区 分	新国立競技場	北京国家体育場	日産スタジアム
床面積	224,950 ㎡	202,870 ㎡	172,758 ㎡
特殊要因			
駐車場	△34,800 ㎡	△19,350 ㎡	—
屋根 (フィールド部)	△22,000 ㎡	(20,690 ㎡)	(20,900 ㎡)
比較対象面積	168,150 ㎡	183,520 ㎡	172,758 ㎡

※ () の面積は床面積に含まれていないため、床面積から減じていません。

Q9 ホスピタリティ施設はどんなものか。また規模が大きくないか。

ホスピタリティ施設は、BOX席や貴賓室及びそれに伴うラウンジ等を総称していますが、FIFAの規定にも盛り込まれており、世界規模の大会を開催する役割を担うために必要な施設と考えています。

また、付加価値の大きいBOX席等は、増収を図るための有効な機能とも考えています。

この施設は、運営上、できる限りスペースを確保することが望ましい部分であるといわれており、世界の大規模スタジアムと比較しても適切であるとと考えています。

区分	新国立競技場	トイックナム ・スタジアム	ウインブリー ・スタジアム
ホスピタリティ 施設面積	20,420 m ²	27,300 m ²	24,100 m ²
収容人員	80,000 人	82,000 人	90,000 人

Q10 商業施設は大きくないか。また、スタジアムの中に設ける必要があるか。

現在、民間のノウハウを反映するいくつかの事業等の導入を検討しており、新国立競技場というブランドを活かし、スタジアムと連携することで、収益性を強化する事業の創出を検討しています。

商業施設を含むスポーツ振興機能については、当初2万1千㎡見込んでいましたが、集客性や規模の効果を勘案し、スポーツの拠点としての新国立競技場に設置することが望ましい施設（秩父宮スポーツ博物館（現有施設）、トレーニングセンター（現有施設）、スポーツ関連ショップ・レストラン等）に絞ることとし、1万5千㎡に見直したところです。

運営形態の詳細は、今後検討することとしています。

区 分	面 積
秩父宮スポーツ博物館	3,600 ㎡
トレーニングセンター	4,350 ㎡
スポーツ関連ショップ	1,100 ㎡
レストラン	1,000 ㎡
企業（パートナー）・大会運営組織 等への賃貸スペース	1,730 ㎡
共用部	3,270 ㎡
計	15,050 ㎡

Q 1 1 駐車場の規模は大きくないか。

新国立競技場の敷地内の駐車場は必要最小限（競技者用、VIP/VVIP用、メディア用、関係者用、身障者用、バス、荷捌用・中継車用）に絞ることとし、900台から662台に見直しています。

なお、建物面積を縮小した結果、附置義務駐車場の必要台数は635台となり、整備予定台数とほぼ同数になっています。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会や大規模国際大会を開催する場合には、近隣の駐車場を借りる、若しくは、仮設で対応することとしています。

なお、大会開催時に新国立競技場を訪れる一般客用は見込んでいませんが、大会等を開催していない時には、施設の有効活用の観点から一般の駐車場として貸し出すことを考えています。

（参考）日本のスタジアムの駐車台数比較

スタジアム	日産 スタジアム	東京 ドーム	豊田 スタジアム	ホームズス タジアム神 戸	福岡 yahoo!Jap anドーム	北九州 メディア ドーム	大分銀行 ドーム
駐車台数	920台	500台	692台	700台	2,000台	1,500台	845台